

タクシーのご用命は0120-148-512登山ハイヤーへ

無料

ご自由にお持ちください

箱根観光情報研究会

箱根観光情報新聞

箱根観光情報新聞
2024秋号第一版
令和6年9月17日発行
企画制作
箱根観光情報研究会
協力
箱根モビリティサービス㈱
制作責任者:美馬 哲
発行部数:800部



秋の箱根旧街道を歩こう

今から四〇〇年程前、江戸から都の京都へ向かう旅人は箱根の山を越える必要があった。現在なら箱根湯本駅からバスやタクシーを利用して簡単に行き来することができ、鉄道や自動車が存在しない時代、自分自身の脚力だけで箱根湯本からの標高差七〇〇メートル以上を登らなければならなかったのだ。

箱根旧道沿いに当時の旅人の苦労を感じることが出来るスポットがある。畑宿から芦ノ湖畔迄の石畳が保存整備されている箱根旧街道石畳と呼ばれる場所だ。最初は箱根竹を敷き詰めた道だったが、メンテナンスに膨大な時間とコストがかかることから延宝八年（一六八〇年）に石畳の道が整備された。昭和三五年



（一九六〇年）には国の史跡に指定されている。

今回、本紙編集長がこの石畳に六年ぶりチャレンジした。秋の散策にお薦めのコースなので、紹介する。

今回は箱根旧道沿いの甘酒茶屋を出発して、芦ノ湖畔を目標約二六〇メートルのコースだ。

甘酒茶屋裏側の山道を一〇分ほど歩くと一旦箱根旧道に出る。道路の反対側に「箱根旧街道」と書かれた看板が掛かっており、奇麗に敷き詰められた石畳が見える。石畳の左右には無数の杉の木が並んでおり、いきなり江戸時代の旅人になったような気分になる。

この入り口はとても雰囲気の良いので、是非写真を撮って欲しいポイントだ。

石畳を進んで行くと所々に看板が設置されていて、石畳の構造や歴史などが紹



介されているので、読みながら歩いて行くと楽しい。途中、斜めに溝が造られている処があったが、雨水を街道の外へ流す工夫だろう。三五〇年前の職人の知恵と工夫に感心する。

しばらく進むと、右は展望広場、直進は休憩広場と書かれた標識がある。

右に進むと二三分で開けた場所に出る。正面に見えるのは三子山だ。残念ながら芦ノ湖や駒ヶ岳の眺望は期待できないが、ベンチがあるので、休憩するには丁度良さそうな場所だ。

石畳に戻り、さらに進むと下り坂になり、芦ノ湖に向けて一気に下る。

甘酒茶屋出発から五〇分程で芦ノ湖の湖畔に到着した。江戸時代の旅人の苦労を偲びながら歩くとても楽しい散策だったと編集長はコメントしている。

星の王子さま移動書店

仙石原には昨年三月末まで「星の王子さまミュージアム」と言う施設があった。一九九九年に星の王子さまの作者サン・テグジュペリの生誕一〇〇周年を祝した記念事業の一環として仙石原にオープンした施設で、特に女性に人気があったが、コロナで入場者が減少したようで、残念ながら昨年三月末日で約二十四年間の歴史に幕を閉じた。



閉園の際には本紙でも記事掲載し、読者の皆様からも大きな反響があった。その「星の王子さまミュージアム」の元スタッフの方が箱根を中心としたエリアで移動書店をオープンしたと言う知らせが本紙にあったのは今年の三月。早速編集長が訪問したのは、今号の二面「名店訪問」のコーナーで紹介しているラーメン蔵一の駐車場。蔵一や近所のカフェ、ポコアポコの店休日に駐車場を借りて営



業。星の王子さまの作者サンテグジュペリが搭乗していた愛機にちなんでルノー製のカングー（搭乗していた愛機にルノー製のエンジンが搭載されていた）が店舗。ポディーは濃紺に黄色のラインと星のマーク、ボンネットとドア下にはサンテグジュペリの名言が書かれている。星の王子さまのファンの方は一目見たらすぐにわかるデザインだ。カングーの周りには星の王子さま関連の書籍や星の王子さまが描かれたバッグやステーションナリー、食器などが展示販売されている。イベントにも出店しており、営業日程はホームページで紹介しているので、スマホやタブレットでチェックしてから出かけになることをお勧めする。

ホームページはGOOGLE、YAHOOで「星の王子さま リブレリ B6

箱根湯本の温泉場入口横に古い洋館風の建物が立っている。この建物で七〇年前から和菓子を提供しているお店が、箱根を代表する和菓子店「ちもと」だ。昭和二五年に当時は銀座に本店があった「ちもと」から暖簾分けして開店した。



茶のちもと



「12」で検索できる。オンライン販売もしているので、是非、覗いて欲しい。



その和菓子店の横にカフェ「茶のちもと」がある。開店は二〇一〇年五月。白を基調にした店内に席数は二二席、利用は四〇分までと言つ小さなお店だ。カフェだが珈琲はメニューにはなく、日本茶と「ちもと」の和菓子が楽しめる。メニューを見ると最初に目にするのは「湯もち」。ちもと駅前通り店の看板商品で、箱根界隈の有名旅館のお着き菓子にも使われている。湯上りの肌をイメージした柔らかいお餅で、早川の岩石をイメージした羊羹を包み、柚子の香りを付けた銘菓だ。

また、一〇月一日に秋限定のスイーツの取り扱いを始めるらしい。「和菓子屋さんの栗モンブラン」。濃厚な栗のクリームの中に香りの良い和の素材を閉じ込めた逸品だ。

提供されるのは一月末

日までの予定。秋の紅葉を楽しんだ後に是非立寄ってその味を堪能して欲しい。



ラーメン蔵二 福島の喜多方ラーメンの味を堪能できるお店が仙石原にある。本紙編集長もよく立ち寄る「蔵二」。「なぜ箱根で喜多方ラーメンの味？」が謎だったが、今回、その謎を解き明かすべく取材させていただいた。応じてくださったのは二代目店主 勝俣仁絵氏。

ラーメン蔵二



創業者の奥様のご姉妹が「まこと食堂」、「あべ食堂」に嫁ぎ、その関係で創業者ご夫婦も喜多方から麵などを仕入れ、一九六一年、箱根で店を始めた。喜多方ラーメンを代表する「まこと食堂」と「あべ食堂」とは文字通り姉妹店だったのだ。にほし、鶏ガラ、豚ガラ、背油を使った醤油スープに仙石原の水を合わせた独自の味を確立。ランチセットのソースかつ丼も喜多方で人気のメニュー。建物外観は喜多方の蔵をイメージしたもので、内装の石張りは石工だった創業者が丹念に石板を切り抜き組み合わせたものらしい。残念ながら「あべ食堂」、「まこと食堂」はこの数年で相次いで閉店したため、姉妹店では最後のお店となった。これからもラーメン好きのために頑張つて欲しいお店だ。

創業者の奥様のご姉妹が「まこと食堂」、「あべ食堂」に嫁ぎ、その関係で創業者ご夫婦も喜多方から麵などを仕入れ、一九六一年、箱根で店を始めた。喜多方ラーメンを代表する「まこと食堂」と「あべ食堂」とは文字通り姉妹店だったのだ。にほし、鶏ガラ、豚ガラ、背油を使った醤油スープに仙石原の水を合わせた独自の味を確立。ランチセットのソースかつ丼も喜多方で人気のメニュー。建物外観は喜多方の蔵をイメージしたもので、内装の石張りは石工だった創業者が丹念に石板を切り抜き組み合わせたものらしい。残念ながら「あべ食堂」、「まこと食堂」はこの数年で相次いで閉店したため、姉妹店では最後のお店となった。これからもラーメン好きのために頑張つて欲しいお店だ。

創業者の奥様のご姉妹が「まこと食堂」、「あべ食堂」に嫁ぎ、その関係で創業者ご夫婦も喜多方から麵などを仕入れ、一九六一年、箱根で店を始めた。喜多方ラーメンを代表する「まこと食堂」と「あべ食堂」とは文字通り姉妹店だったのだ。にほし、鶏ガラ、豚ガラ、背油を使った醤油スープに仙石原の水を合わせた独自の味を確立。ランチセットのソースかつ丼も喜多方で人気のメニュー。建物外観は喜多方の蔵をイメージしたもので、内装の石張りは石工だった創業者が丹念に石板を切り抜き組み合わせたものらしい。残念ながら「あべ食堂」、「まこと食堂」はこの数年で相次いで閉店したため、姉妹店では最後のお店となった。これからもラーメン好きのために頑張つて欲しいお店だ。



本紙ではお客様にできる限り正確に情報をお伝えするよう努力しておりますが、紙面の都合上、お店の場所や営業日、営業時間などの詳細をお伝え出来ない場合がございます。お手数をおかけしますが、訪問される前にお店や施設のホームページなどで営業日、営業時間などをご確認ください。よろしくお願いいたします。

本紙は今年一二月一日に創刊五周年を迎えます。創刊当時の、ホームページで情報発信をするようご要望をいただいておりますが、今年七月二〇日によりやく準備が整い、ホームページを公開しました。左記QRコードでアクセスできますので、是非ご覧ください。なお、箱根で出会ったお客様との楽しい会話や箱根移住関係の話題も提供してまいりますので、どうか宜しくお願いします。

本紙は今年一二月一日に創刊五周年を迎えます。創刊当時の、ホームページで情報発信をするようご要望をいただいておりますが、今年七月二〇日によりやく準備が整い、ホームページを公開しました。左記QRコードでアクセスできますので、是非ご覧ください。なお、箱根で出会ったお客様との楽しい会話や箱根移住関係の話題も提供してまいりますので、どうか宜しくお願いします。



箱根に観光に来たけれど「どこを見たらいいかわからない。」「効率的に観光したいけれど…」とお悩みのあなた箱根観光は登山ハイヤーがおすすめです。

今すぐ
0120-148-512(携帯OK)へ

